

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373401037		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム 美和		
所在地	岡山県真庭市樫東43-1		
自己評価作成日	平成24年 7月 20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373401037&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成24年 8月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山林・田園に囲まれた静かな環境の中の昔ながらの旧家が、家庭の延長になり、利用者様ご自身も 今までしてきた「土いじりや趣味」を生活の中に取り入れ 安心して心穏やかに生活して頂けるようなケアを目指していきたいと思っております。又 地域の方々・家族の方々とも季節の行事や趣味を通して声を掛け合えるように努めていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年に開設してから22年末に前管理者から引き継ぎをしていた人に1年8カ月ぶりに会えた。(平成23年度は外部評価免除認可を受けていた)。自己評価を事前に読んで「よく具体的に考えている」と管理者として努めている意欲を感じ、訪問調査時に具体的な事、これからケアマネージメントに関して改善していこうとしている事も含めてその考えや希望している内容を知ることが出来た。これからの努力に期待しておきたい。
このホームも開設してからもう7年経過し、8年目に入っている。今年の初めから利用者の入れ替わりも多く(法人内施設移動)、ホームの雰囲気も変わった。職員も新しい人が多く、特に経験の少ない人達が入っているが、皆一生懸命利用者へ接している姿を見ると、管理者の熱意によってその人達を育てていくのも新鮮味があって良いかも知れない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は、もちろん年間の個人目標を立て立てた目標は職員の目標とし掲示し2ヶ月事に変えて職員会議の場で反省をし、年度末には個人の目標の反省し見直しています。(22・目標計画達成)	ホーム全体の理念を細分化しながら、職員が自分の目指すケアの方向性を言語化して出し合い、実現可能な事を具体化して共有し、実践、反省、見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事や、施設での行事に声を掛け合っています。(小学校の運動会・発表会・お花見・お祭 など)	ホームが主催する夏祭りは、この村で家族が揃って参加できる唯一の行事となり、人と人との絆が深まる中で「老人クラブが活発になってきた」と喜びの声が届いている。ホームの畑作業や学校行事等で交流が広がっており、地域貢献、村興しの効果が上がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や畑仕事 など 交流の中で理解してもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域代表者・市職員・施設職員との話し合い 行事 などに組み入れています。(22・目標計画達成)	地域代表、市担当者、法人職員と施設職員、利用者と家族が交代で出席し、情報交換が行われている。災害時の地域との協力関係や野菜作りで野交流等委員会の中から提案され実践されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	真庭市グループホーム連絡会義において、市職員と連絡を取り合っています。	運営推進会議やグループホーム連絡会を通じて十分な交流が得られている為、何事も相談し易い関係が成立している。市が主催する行事等には積極的に参加協力するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無断外出・転倒 などの危険性のある方は、安全確保の為に施錠していますが、それ以外方はオープンな心掛けています。	入所者も職員も1年未満と言う慣れない集団の中で、職員自身が発案した“説得より納得と言う理念を共有し、丁寧で温かい言葉で会話している。帰宅願望の強い利用者に寄り添い、炎天下を歩く姿を見かけた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング・職員会議の場で時間を作り話し合いの場をもち防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市などの研修に参加し職員会議の場発表し学ぶ場・機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項などを説明していません。改訂時には文書で連絡を入れ来所時に口頭説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に於いて利用者や家族から意見を聞いています。	毎月、園だより、担当職員の手紙、医療情報を家族に知らせている。(手紙の返事が返る事も多い)。家族からの電話連絡や連絡事項はメモして全員が目を通し、家族の思いを受け止める様にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議に於いて出た内容を職員会議の場で報告しています。	新人職員が多い中で、些細な意見でも下からつなげて、管理者に意見が届く流れ、関係づくりが出来ている。斬新なアイデアが積極的に出ており、ケアに反映させることも増えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内での「規約道理」に遂行されます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	荘内・外での研修に参加を呼びかけ知識の習得に努めています。 (22・目標計画達成)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三ヶ月に一度真庭市のグループホーム連絡会議と市職員による会議を開催しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時調査に於いて家族からの要望を尋ねています。入所してからは、本人が何がしたいのか、何を必要としているのかを観察、傾聴に努め安心を確保しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時調査に於いて家族から要望や困っていることを尋ねています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時調査に於いて聞き取りと本人の観察をして対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事をしてもらいながら職員もその中に入っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来られたとき、本人の介護の申し出があれば家族にお願いをしたり職員と家族		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出話・大切にしてきた事など 本人の話に傾聴を心がけています。	地区の公民館で行われるお茶会に誘われて参加する人、お話ボランティアと会話を楽しむ人達の大切な関係が継続していく支援を心掛けている。玄関に設置してある面会者名簿に多くの記名がある事を確認できた。この面会者との途切れない為の支援も大切にしたいものです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が「場」を盛り上げたり、掛け合いながら関わりを持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えを十分聞いて話し合い、希望に添えるように支援しています。	利用者の心の中を察知するために傾聴と観察に重点を置き、会話の内容や職員の気付きをメモし、集約しながら利用者一人ひとりを理解しようと努めている。不穏行動が目立っていた人も、盆栽の手入れや野菜作りに参加し、落ち着いた暮らしが出来始めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ライフストーリーにより、今までの生活歴を尋ねています。(人生歴の暦の作成に取り組みをして行きたいと思っています)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒にすることや、個人出来る事をして頂くように取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスをしています。	手紙、園だより、写真集の常設、連絡帳の活用等の手段で家族に暮らしぶりを紹介し、十分な話し合いの上でプラン作成を行っている。利用者の心中を察知できるアセスメントの活用の工夫が大切になってくる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有する為に個別・内容別に記録を取るようになっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者 個人の状況に対応出来るようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での催し物には、出来るだけ参加するようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かり付け医は、家族の希望により決定し、家族が受診されるときは日ごろの様子を伝えたり、往診の場合は医師に報告し個別に記録を残して	提携医の2週間に1回の往診(夜間対応も可)がある。精神科受診は職員が対応し、情報提供と家族への連絡等、必要な措置は行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告を受けて事は、掛かり付け医・看護師に相談し医師の指示を受けたり受信後家族に伝えていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に付き添いその時、又病院訪問時より看護師情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に重度化したときの対応の説明をしています。	入所時に家族に十分な説明をし、納得してもらっている。重度化した時は、かかりつけ医の指示を仰ぎ、家族に判断を求めている。総合病院や近くに医療機関が無い為、今後もこの姿を継続していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議の場で勉強会をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を半年に一度、自然災害が起こりうる時には、職員に声を掛け合っています。又運営推進会議の度に地域の方と話し合っています。	緊急時のマニュアルや連絡網を作成し、定期的訓練を行っている。毎月の職員会議で、スプリンクラーの扱い方、消防署への通報の仕方等、口頭で説明し、防災意識の高揚に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに気をつけながら声掛けに努めています。	職員、利用者共に1年未満の人が多いこのホームでは、お互いを知ることの必要性を感じている。利用者一人ひとりの人生歴を傾聴、観察しながら、生き方その物を尊重していこうと言う方針を立て、メモを片手に情報収集の途上にある。直近に入所されたと言う利用者も落ち着いた行動をしていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ何をしたいのか、どうしたいのかを尋ね出来る事は対応するように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々自由に過ごせるようにしていますが、職員側のペースに合わせているようにも思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい物を尋ねてみたり、その日の気候・温度を考慮したり、自分ですすんで着られる方にはおしゃれを誉めてきれいに整える気持ちを大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの方が、居られなくなって段々と台所仕事が無くなってきていますが、野菜の皮むきは出来る方が居られるのでして頂いています。	新しい集団の為、連帯意識は乏しいが、職員と一緒に食事をしながら軍隊時代の話、自分の子供の話に耳を傾け、全体の調和を図りながら、和やかな食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分一日に1500cc～1800ccを基準に飲んで頂いています。食事量は、個人に合わせています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っています。出来る方には声掛けをし、出来ない方には支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し出来るだけトイレ使用に努めています。	法人全体で勤めている「おむつ外し運動」に則り、綿密な排泄記録の実践を適切な誘導により紙パンツから布パンツに切り換えの事例も多くある。全員、自立排泄可能という現状維持を目指し、失禁体操等に取り組んでいく課題もあって欲しいものです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に気をつけ、便秘解消の食べ物・飲み物摂取に心がけ「下剤」に依存せぬように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一度の入浴に満足して頂くために隔日にして頂いています。	毎日型から隔日型に切り替えたことにより、職員と利用者がゆったりと関わる事が出来るのが何よりの成果といえる。普段無口な利用者が一対一の対話を楽しみにしているそうだ。原則として、希望者には毎日実施も可能な支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と処方箋の確認、解らないことは医師に尋ねています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を通して完成した喜び・好みの食べ物・畑で作った物を収穫する楽しみや気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや喫茶店でお茶タイムを作っています。	居室に面した芝生の庭や日本庭園の散策は自由に行われており、リビングから職員の見守りが届く範囲にあるのも嬉しい。野菜畑で近隣の人との触れ合いがあり、公民館の茶会に参加するのも恒例になっている。墓参りなど特別な外出は家族に依頼しているが、個々の支援には極力答えるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいとの希望があれば、所持して貰っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば職員が電話をかけて、話が出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着く場所で過ごして頂けるように支援します。	テレビコーナーと食卓はソファで仕切って、別々の空間と言う雰囲気があり、好きな場所で過ごせる。新しい集団であるが、男性3人は一つの島に集まり、重みのある雰囲気を醸している。トイレ、部屋の表示も分かり易く、混乱はないとの事。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要最小限の物だけにして、混乱しないようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を持ち込んだり、使い慣れた物を側に置いて頂くように話しています。	掃き出し窓が芝生の庭に続いている部屋もあり、庭に向って盆栽の手入れを楽しんでいる人もあった。全盲の利用者は入口まで職員に付き添ってもらい、居室内は「不安なく自立で過ごせている」と本人が話して下さった。整然とし、明るく、安心出来る配置が施されていた。備え付けの家具以外に自分の作品や家族写真を飾って自分らしさを表わしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかりやすいように、共有・自室に名前をつけています。		